

特記仕様書

三 次 市

第1章 総 則

第1条 適 用

1. この仕様書は、工事施工の適正を期するための仕様書であり、広島県土木工事共通仕様書に優先するものとする。
2. 工事施工にあたっては、設計図面・工事請負契約書及び、広島県土木工事共通仕様書、建設工事執行規則に準拠するほかこの特記仕様書に定めるものとする。

第2条 協 議

1. 設計図面・契約書及び工事現場で不明なこと計画設計内容等に変更が起きた場合は、直ちに監督職員と協議すること。
2. 工事の内容及び工法等について、関係者及び地元役員から変更の申し入れがあった時は必ず監督職員に報告し、協議決定してからでないと変更してはならない。

第3条 諸 手 続

1. 工事着手に先立ち、他省庁管理施設（道路・河川・鉄道・電柱・その他公共施設）に関する工事で発注者が認可申請をするもの以外で工事施工に伴う申請（警察署・消防署・漁協等）及び協議をして、その許可条件を順守すること。
2. 文化財指定周辺の工事は関係者（県教育事務所・市町教育委員）立会のうえ指示に従って施工すること。

第4条 そ の 他

1. 工事施工にあたっては、第三者に迷惑を及ぼさないよう細心の注意をし、工事用重機械及び諸資材の搬出入等で既設道路・水道管・護岸・電柱・家屋等に損傷を与えた場合は受注者の責任において、速やかに管理者等と協議をして、必要な処理をすること。
2. 工事施工にあたっては、土木工事安全施行技術指針・保安施設設置基準・公衆衛生等に関する諸法規を順守して現場管理を行うこと。
特に豪雨、出水その他天災に対しては、気象予報に十分注意をして、特にこれらに対処できる準備をしておき、災害の防止に努めなければならない。
3. 設計図面及び仕様書に表示してある寸法はすべて仕上がり寸法である。

第2章 材 料

第1条 二 次 製 品

1. 設計図面及び仕様書に特定の製品名及び製造業者名を表示していない場合は、JIS製品・JWWA製品又は監督職員が認める同等以上の製品であること。

第2条 コ ン ク リ ー ト

1. 生コンクリートは高炉セメントB種を使用するものとし、JIS指定工場で生産されたコンクリートを原則とするがこれによらない場合は監督職員の承認を得ること。

示方配合は次のとおりとする。

| 用 途 | 粗骨材の最大寸法 (mm) | スランプ (cm) | 設計基準強度 N/mm ² | 水セメント比 W/C |
|----------|------------------|--------------|-----------------------------|---------------|
| 無筋構造物 | 40 | 8 | 18 | 60 以下 |
| 一般鉄筋構造物 | 20 | 8 | 24 | 55 〃 |
| 均しコンクリート | 40 | 8 | 18 | 60 〃 |

第3章 工 事 施 工

第1条 準 備 工

1. 本工事の開始前に地元役員及び発注者に着手連絡をし、工事の早期着工に心掛けること。
2. 工事施工に先立ち、測量杭の確認・控杭の設置・仮水準点の設置をし、工事作業員及び監督職員がこれを確認できるようにしておく、又工事中の保存にも注意し破損した場合は直ちに再設置しなければならない。
3. 工事着工にあたって工事区域内たん水箇所・湧水等を調査し、区域内に水が溜まらないよう排水路・暗渠など設け区域外に排水し、良好な状態で工事が出来るようにする。
4. 工事に必要な各種の標識は、その位置を決定し工事着工前に設置すること。
5. 工事施工上危険と考えられる箇所には、防護柵などの危険防止施設を設置すること。

第2条 一 般 施 工

1. 工事施工中は不慮の災害（水害・火災・急病等）に対応できるように地区内既設道路・計画道路・連絡道路が通行に支障を及ぼさないように、工事施工計画を立て、更には、道路の維持管理にも注意をすること。
2. 重機械の作業にあたっては、土工計画の内容を熟知して、作業工程、施工機械の組合せに注意し施工可能な工種と作業待ちを必要とする工種を区分して無理のないよう工程を立てること。
3. コンクリート二次製品の小運搬は、重機による運搬は行わないこと。
4. 河川汚濁防止の措置として又内水面漁業の資源保護のため、工事施工にあたっては十分注意をすること。
5. ダンプトラックによる土砂運搬（工事現場内は除く）はシート掛けをし、道路運行の危険防止に努めること。
6. 残土処分をする場所が指定してある場合の変更及び指定していない場合の位置については、監督職員に届出をすること。尚、残土処分をした土砂が降雨等により流出し、周辺から苦情がでないよう管理をすること。

第3条 土 工

1. 表土剥取り土は、盛土及び埋戻しに流用してはならない。
2. 掘削は過掘りをしないよう十分注意し、人力により床均しをする。尚、過って過掘をした場合は、土砂で埋戻すのではなくコンクリート（18N/mm²）により埋戻すこと。
3. 掘削法面の浮石・転石等は入念に除去し事故のないよう注意をすること。
4. 切土面の土質が計画と異なった場合、法面の勾配・小段の位置・法止め構造物の位置及び形状の変更を指示することがある。

第4条 コ ン ク リ ー ト

1. コンクリートの打設は湧水・雨が降っている時はしてはならない。
2. 打継目が出ないように十分締固め、コンクリート表面の清掃をすること。

3. 打継目は漏水の原因となりやすいので水密構造物においてはなるべくコンクリートを連続して打ち込み打継目を避ける。尚、打継目を設ける必要がある場合は水平継目とする。

第5条 盛土工

1. 盛土断面に極端な勾配，凸凹がある場合は盛土に先がけてできるだけ平坦にかき均し均一な仕上がりとなるようにする。
2. 1回の盛土の撤出しは，仕上り厚は30cmとし必要な密度が得られるように転圧すること。
3. 盛土の高敷きは極力さけ，スベリを防止するため段切りを行うこと。
4. 切土部から盛土部へ変わるヶ所で施工中水溜りが出来る所には暗渠を設け排水に注意すること。
5. 構造物が十分に強度を発揮しないうちに盛土を行って土圧を与えてはならない。

第6条 養生

1. コンクリートは打ち込み後，低温・急激な温度変化・乾燥・荷重・衝撃等の有害な影響を受けないよう十分に注意し養生しなければならない。
2. コンクリートの養生は散水・水張り・ぬれむしろ・湿砂・膜養生等で行い少なくとも7日以上湿润状態に保つこと。

第7条 跡片付け

1. 丁張・測量杭等の撤去は法面をいためないようにする。
2. 材料置場・仮設物・標識などは速やかに撤去し原形に復すこと。
3. 工事区域内に飛散した雑物は処分清掃すること。

第8条 その他

1. ダンプカー協会加入者の優先使用について
 - (1) この契約に係る工事の施工に当たってダンプカー協会の設立，加入等の状況に応じてダンプカー協会加入車を優先的に使用するようつとめること。
2. ダンプトラック等による過積載の防止について
 - (1) 工事用資機材の積載超過のないようにすること。
 - (2) 過積載を行っている資材納入業者から資材を購入しないこと。
3. 建設工事に係る暴力団による工事妨害について
 - (1) 暴力団から工事妨害の被害を受けた場合は，その旨を直ちに報告するとともに被害届けを速やかに警察へ提出すること。
 - (2) 警察から被害届受理証明書が交付され，かつ，工程の調整を行ったにもかかわらず工期に遅れが生ずるおそれがある場合は，建設工事請負契約約款（以下「約款」という。）第21条の規定による工期延長申請書に当該証明書を添付して提出すること。

第9条 廃棄物の処分について

(1) 廃棄物の処分

本工事により発生する廃棄物は下記の処分先を見込んでいる。

【建設発生土】

| | |
|-------|-----------------|
| 処分場所 | 有限会社大杉組建設残土たい積場 |
| 運搬距離 | 6.9キロメートル |
| 受入費用 | 平日の受入費用 |
| 提出調書等 | 提出を義務付ける。 |